

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201348		
法人名	有限会社グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームかいぜ	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市皆瀬町270-12		
自己評価作成日	平成24年6月13日	評価結果市町村受理日	平成24年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方々のペースで思い思いに過ごして頂き穏やかなゆったりとした生活を支援しています。地域のボランティアの方と定期的に交流を持ち入居者の方々も職員も笑顔いっぱいの毎日を送っています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年7月25日

<p>昭和30年代から地域住民の診療にあたってこられた神谷医院の一部を改装し、10年前“グループホームかいぜ”が開設された。ホームから見える山々の風景は変わらず、24時間体制の医療連携も受けながら、ご利用者主体の安心した生活が続けられている。24年4月、ホームとご利用者のことを一心に思い、職員のチームワークを作ってもらった管理者が定年退職を迎えた。職員の入替わりとあわせ、行動障害が表れている方のケアも重なり、施設長、新管理者、職員全員で日々の変化に付き合い、精一杯、乗り越えてこられたが、家族の思いと向き合うことの難しさを学ぶ1年でもあった。10年目の大きな節目で、“原点に立ち返る1年”“初心に立ち返る1年”と、謙虚に前向きに話して下さる施設長の姿は印象的で、その成果も次第に表れ、24年夏頃から少しずつ落ち着きを取り戻してきている。ご利用者の方々が「大正琴とピアノ」を演奏し、皆さんで合唱する姿も見られ、美味しい豆腐(藤吉郎)を家族が持ってきてくださったことがきっかけで、ホームにも移動販売にきて頂くようにした。今後も引き続き、下肢筋力低下や浮腫予防のためにも、ホーム内での歩行の機会や近隣の散歩を増やしていく予定にしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝唱和し職員全員で共有し、理念に沿って入居者が明るく笑顔で暮らせるように毎日のケアを行っています	新管理者体制のもと、理念の実践に努めている。”笑顔で明るく自分らしい生活を送る為の支援をいたします”と言う実践で、ご利用者の特技をレクリエーション等に取り入れ、お裁縫が好きな方にはいつでもできるようにしている。ピアノが得意な方には弾いてもらい、他のご利用者の方々と一緒に合唱する時間も増えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には必ず参加し貌なじみになり、ホームのことも理解してもらえ地域よりのボランティアの方との交流も少しずつ増えている	地域の行事が多く、夏祭りや公民館祭りにも参加している。地域のウォークラリーは施設の方向けのコースもあり、98歳の方が表彰状を頂いている。民生委員によるDVD鑑賞会(昔の歌等)や住職によるパネルシアターの上映会(なむなむ会)、中学生の職場体験学習や保育園児との交流も行われ、涙を流して拜まれる方もおられる。	ホーム主催の交流会「ちょっとよってみゆう会」も続けられている。今後は市民大清掃の時にご利用者ができる範囲で参加したり、よりホームの事を理解頂くためにも、地域の方々にホームの役割やご利用者の状況も説明していく予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々が訪問された時や行事などの時日常的な会話の中で行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議ではホームの状況を報告し意見を頂きサービスの向上に活かしている	会議の時に「めんたい工場ができたので見学に行かれませんか」と教えて頂いたり、デイクラブでの外出状況も教えて頂き、有意義な情報交換の場となっている。外部評価結果を説明した時も、「これだけの結果を出すには日々の支援の積み重ねが大切。皆さん頑張っておられるのですね」と労って頂いた。	ご利用者、家族、民生委員、地域のデイクラブの会長、地域包括職員、隣のホームの施設長等に参加頂き、有意義な会議となっている。今後も更に、派出所の方や班長の方などにお声かけをしながら、色々な視点での意見交換ができる会議にしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の担当者と会議以外でも連絡を取り合い協力関係を築くようにしている	認定の更新時には職員が支所に行かれており、制度改正等の市主催の研修には施設長が参加されている。処遇改善の体制加算などで不明な点がある時は、市役所に出向いてアドバイスを頂いている。今まで連絡が取れなかった家族の情報を市役所の方から教えて頂き、連絡(終末期に向けた)が取れるようになった方もおられる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員がマニュアルや研修等で正しく理解し又、職員全員が身体拘束の非について話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	主治医や専門医との連携も行われている。行動障害は寂しさや不安等からの行動と理解し、家族と離れて暮らす“ご利用者の不安”を感じた時は、施設長や職員が抱きしめてさしあげることも多い。ご本人の混乱から「助けて」と叫ばれる声を近隣の方が心配された事もあり、近隣の方にも病気のことを説明させて頂いた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には積極的に参加し、入居者の方々の意見や人格を尊重し虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はおられないが、研修には参加し包括センターともいつでも相談し、協力していく態勢はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居当日には詳しく説明している。又、来訪された時には再度話し、理解・納得して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を置いている。推進会議には入居者の方にも参加して頂き、意見・要望を話せるようにしている。年に回、家族会を開き交流を行い話を聞いている。	ご利用者とゆっくりお話し、気持ちに寄り添うようにしている。日々の会話から「お墓参りや買い物に行きたい」という要望が聞かれたり、「お墓に入れるだろうか」という不安を話して下さっている。家族会や面会時には、施設長や管理者、職員から声かけを行い、「ホームに宿泊ができるか」などの疑問を伝えて頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や通常の勤務時等で時間・機会を見つけ全体・個別に意見を聞き繁栄させるようにしている。	施設長と管理者は職員との会話を大切にしている。職員からの意見で系列ホームの行事参加の出し物等の意見があがり、意見交換が行われた。何があっても、「何とかするでしょう」と言って下さる施設長と共に、料理上手な職員、笑顔が素敵な職員、ピアノが弾ける職員など、職員個々の特技を日々の業務で発揮して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員と接する時間を作り、それぞれのいいところを伸ばし、希望を持って働ける職場作りに努めている。時々、職員の親睦を兼ねて食事会を開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じて研修会への参加、資格取得の声掛けの機会を作っている。永年表彰、資格取得時の表彰及び手当を考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、お互い他ホームの職員と意見交換しホームの質を向上させるように努力している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、プランを立てる。入居後生活の中で本人の状態・様子をしっかりと把握する。日常生活の会話の中で不安・要望を受け止め、全体会議で話し合いサービスに活かし安心してもらえる関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ、見学の段階から本人・家族とゆっくり向き合い不安・要望をしっかりと受け止め、安心して生活してもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって、今何が必要なのかを状況や話の中で捉えホーム内にとどまらず、活用できる他のサービスも含め最も適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	単にサービスを提供するのではなく、一人ひとりが出来る事(箸並べ・テーブル拭き・エプロンたたみ等)をして頂き協力し合っている。どんな時も感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期の段階より、家族とはいろんな事をお尋ねしたり話し合いを行ったりして、御本人が安心して生活出来るよう協力態勢を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム・外部のサービス・家族の協力等でお墓参りに出掛け、今までの関係が途切れない様に努めている。又、家族と教え子の音楽会に行かれる時には大切な方々に会われるので、その場に合った服装等の支援をし、楽しく過ごしてもらえるようにしています。	馴染みの関係を大切にされており、遠方の家族に電話をかけた後、馴染みの方が面会に来られると、お茶を出してゆっくりお話をしている。“お出かけサポート”を利用して、職員同行でお墓詣りに行かれた方もおられる。ご本人から、親戚で同級生の所に「行きたい」という要望が聞かれたので、お連れすることができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員は、一人ひとりの性格・他の利用者の方々との関係をしっかりと見極め、全員が協力し助け合って楽しく生活できるように努めている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむおえない事情によりサービスが終了した場合も、出来る限り相談にのり不安・心配が少なくなるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の話し合い又入居後は一人ひとりとゆっくり向き合いいつもの会話や生活状況の中で思い、意向を把握するようにしている。又困難な場合には表情や動作から推し図れる情報を全職員で話し合い検討している。	日々の会話を大切にしており、日常の会話や活動を通して、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。思いの把握が難しい方には、以前のお仕事や昔好きだったことから思いを引き出したり、家族からお話を伺い、真の思いを知るように努めている。日々の生活の中で、料理作りや外出等を楽しんで頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から入居前より話し合い、入居後はさらに今までの生活状況、経過等を深く広く把握できるようつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状況心身状態、得意なこと苦手なこと等は些細なことでもしっかりと記録したり申し送り等で全職員は理解している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日常生活の中で、家族には面会時に意見や気持ちをお尋ねしケアプラン会議で意向を重視し、繁栄したプランを話し合っている。	家族に日々の記録を見て頂き、要望を伺っている。「どんどん歩かせてほしい」と言う家族の要望があり、廊下を歩く、リハビリ体操等を介護計画に取り入れた。計画には、箸並べ・テーブル拭き・カレンダーめぐり等の役割や、ピアノ・大正琴・裁縫等の好きな事と共に、外出(カラオケ)などの地域で暮らす視点も盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に、ケアプランの結果気付きはチェック表に記入し全職員がいつでも見ることが出来、情報を共有し、実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズ、状況に応じて本人にとって最も必要で安心を得られることを最優先し、柔軟に対応している。		

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館祭りの作品出展、夏祭り、おくんち、ウォークラリー、町内清掃等に参加をし、地域の一員として出来る事を協力し助けを借りながら豊かな気持ちで生活を楽しめるよう支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医に受診されている診察の時には状況を説明し、主治医より指導を受けたり、不安、気掛かりなことは相談している。又結果は家族に報告している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	希望の病院に受療頂くことができるが、協力医療機関(神谷医院)が主治医という方が多く、週に1回の往診も受けることができている。同一建物内に神谷医院があり、夜勤時も医院の看護師にいつでも相談できる体制となっている。他科への受診は家族と一緒に通院助助を行い、受診の結果も共有できている。
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付き、状況は看護師に伝え不安なこと、心配なことはいつでも相談をしている。必要時には看護師からも主治医に連絡をし適切な診療、治療が受けられる体制を整えている。
33	(12)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先の関係者と密に連絡を取り合っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間体制の医療連携が行われており、ご本人と家族の安心にもなっている。状態に応じて点滴や酸素吸入等の医療行為も行われ、ご本人と家族の不安を和らげ、安心した気持ちで最期まで過ごせるような支援が行われている。家族の方が昼夜付き添って下さったり、神父様が訪問し、ルルドの水を口に含ませて下さった。家族の都合によって、ホームで葬儀の手配まで行った方もおられる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居時に本人や家族にアンケートを行っている。又状態に応じてその都度主治医を含めて話し合いを行いチームで支援に取り組んでいる。
			看護師により内部研修を行い、全ての職員が対応できるようにしている。
			神谷内科と合同で、年に2回、昼夜を想定した避難訓練が行われている。ご利用者、職員、消防設備会社の方が参加し、近所の方にも災害時の協力を依頼している。災害に備えて、水、軍手やタオル、靴下や尿パッド等を入れたリュックやおかゆ、飴、ペットボトル、薬や症状を記載した書類なども準備している。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人おひとりを敬うことを忘れず、「してやる」という気持ちを持つことなく、プライドを傷付けない様な声掛けを行っている。又、孤立させない様な対応を行っている。	理念にもある“ご利用者個々の人格、個性を尊重する”ように、代表や施設長が職員に伝えている。特に言葉遣いを大切にされており、職員同士で気を付けている。ご利用者に対して“援助する”という気持ちではなく、“共に行動する”という気持ちを持ち、ご利用者の立場に立った支援を心がけている。	ご利用者の行動に対して、時に強い言葉をかけてしまうことがあり、職員同士注意し合っている。どのような時に言葉かけが強くなるのか、原因は何かを検討していく予定であり、よりご利用者の立場に立った支援を続けていきたいと考えている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情から入居者の思いや希望を受け止め、それぞれの気持ちを自然に表せる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースを守り、一人ひとりの生活の流れを大切にし、希望を取り入れる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の箸並べ、お盆拭き、食後のテーブル拭きをスタッフと一緒にします。みんなで出来るおやつ作りを楽しめる様に支援している。	ホットプレートで作ったドラ焼やお焼き(焼きおにぎり)等を作られたり、23年度は梅干し作りも楽しめました。日当たりの良いリビングでカイワレ等の栽培を行い、お吸い物に入れている。職員も一緒に同じ食事を食べており、職員手作りのお漬物も好評である。ご利用者と一緒に買い物に行く機会も作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前・食後の口腔ケア(イソジンでうがい)、食後、出来る方は歯磨きをしてもらい、出来ない方に対して介助(一部介助)の対応を行っています。夕食後は義歯を一晩消毒しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレへ行かれない方には時間を見て声掛けをします。動きや話し方等の状況で判断したり、時間を見計らって声掛け・誘導します。出来る事は自分で行ってもらい、出来ない事は介助します。	排泄が自立している方もおられる。日勤帯は自室のポータブルは取り除き、誘導の必要な方には耳元で声かけをしている。排泄時は、ご本人のできる所はして頂いている。意思疎通が困難な方は、表情や仕草などを見ながら誘導を行うことで、トイレでの排泄が増え、尿取りパットの使用枚数が減った方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に水分補給や、バランスの摂れた食事の提供。軽めの運動(イージウオーク)の声掛けに取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は皆さん楽しみにされている。季節に応じて、菖蒲湯・ゆず湯を実施。	入浴を好まれない方も、最低週2回の入浴ができるように声かけを行い、シャワー浴や陰部洗浄、清拭も行われている。湯温などの希望に応じ、菖蒲湯やゆず湯も楽しまれている。浴室から出る時はバスタオルを巻くなどの羞恥心にも配慮し、浴室外のソファで髪を乾かし、ゆったりと寛ろぐ時間も作られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重し、昼夜を問わず自室で過ごされる時間を大切に安心される様に支援します。夜間の巡回時は、睡眠を妨げない様に心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、常に確認出来る様になっている。副作用と考えられる場合は、医療機関に連絡・相談し、変更がある場合は申し送り等により確実に把握出来るよう努力している。(副作用については皆が見られる様に、資料を設置)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて自主的に得意な事(箸並べ・テーブル拭き・カレンダーめくり)、又好きな事(ピアノ・大正琴・裁縫)をしてもらえる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に添う様に一人ひとりの希望を把握し、希望に添って対応出来る様になっている。又、御家族にも伝え、本人の希望に添える様支援している。	外出を好まれない方も多いが、職員が意識して声かけを行い、ホーム周辺の散歩や、おやつを持って花見に行かされている。地域行事が多い事もあり、季節に応じた行事に参加することもあり、外出時は家族にも協力を頂いている。希望を聞きながら、お誕生日の時に家族も一緒に外食や買い物を楽しまれたり、家族が入所されている施設にお連れすることもできた。	リビングからの眺めも良く、山々を眺めながらの生活を行うことができている。今後も引き続き、下肢筋力の低下を防ぐためにも、ホーム内の歩行訓練と合わせ、ホーム近隣の外出を増やしていきたいと考えられている。



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が出来る方には小遣い程度持参され、自由に出来るよう支援しているが、出来ない方は事務室にて職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話されている。手紙が届いた時はすぐに御本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にベンチを置き、花壇を眺められる様にした。動きやすい様に廊下・ソファの配置換えをした。「トイレ」を「便所」を書き換え分かり易くした。居室には炭や消臭剤を置き、生活臭にも気を配っている。	リビングには3ヶ月かけて作られた龍の貼り絵や、前管理者直筆の理念も貼られている。リビングのテーブルの向きを変えた事で移動がしやすくなり、ご利用者の心身状況に配慮しながら、心地よく過ごせる工夫がされている。入浴後に髪を乾かすためのソファやお風呂の順番を待つためのソファが置かれ、ご利用者同士で団欒できるスペースにもなっている。お茶の葉を使ったお香もたかれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングソファの位置を変えたり、廊下にソファを置いて一人の時間を過ごしたりまた、気の合った入居者同士で話が出来るとしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、御本人・御家族と相談して馴染みのタンスや品物を使用してもらい、なるべく以前の環境に近くなる様に工夫している。	ご本人や家族と相談して、馴染みの鏡台や籐の椅子、たんすや洋服掛けなどを持ち込まれている。ベッドの向きなども、ご本人の移動のしやすさに配慮し、ご本人に合わせて家具の配置がされている。ホーテーブルの前にはカーテンスタンドが置かれ、プライバシーへの配慮が行われている。大切な仏壇を置かれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋のドアには名前を大きく書き、分かり易くしている。特にトイレは分かり易い様に「便所」と書き、矢印で表示し安全面にも工夫している。(コーナーなど)		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	ご利用者の行動に対して、時に強い言葉をかけてしまうことがあり、職員同士注意しあっている。どのような時に言葉かけが強くなるのか、原因は何かを検討していく予定であり、よりご利用者の立場に立った支援を続けていきたいと考えている。	ご利用者の気持ちや要望をくみ取り誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を職員全員で心がけ実践していきます。	全員で状況や原因を話し合い情報を共有する。強い言葉かけが見受けられそうな時は、注意を促し場合によっては対応を交代し、入居者の方の誇りやプライバシーを損ねない様に支援します。	3 ヶ月
2	18	リビングからの眺めも良く、山々を眺めながらの生活を行うことができている。今後も引き続き、下肢筋力の低下を防ぐためにも、ホーム内の歩行訓練とあわせ、ホーム近隣の外出を増やしていきたいと考えられている。	全員で春に遠出(ハウステンボス等)	ホーム内での歩行訓練、近場への散歩の回数を増やす。ドライブの回数を増やす。	8 ヶ月
3	2	ホーム主催の交流会「ちょっとよってみゆう会」も続けられている。今後は市民大清掃の時にご利用者ができる範囲で参加したり、よりホームの事を理解頂くためにも、地域の方々にホームの役割やご利用者の状況も説明していく予定にしている。	地域の方にホームの事をもっと知ってもらいたい。	市民大清掃に参加する。町内の運動会に参加します。「ちょっとよってみゆう会」の参加者の輪を広げホームの事をしってもらう。	2 ヶ月
4	3	ご利用者、家族、民生委員、地域のデイクラブの会長、地域包括職員、隣のホームの施設長等に参加頂き、有意義な会議となっている。今後も更に、派出所の方や班長の方などにお声掛けをしながら、色々な視点での意見交換ができる会議にしていく予定である。	色々な視点での意見交換ができる会議。	いつものメンバー以外の方の参加を検討する。班長さん、派出所の方等。	4 ヶ月
5					ヶ月